

〈研究ノート〉

## 子どもの歌における半濁音と 撥音・拗音と撥音のモーラ処理

夏 目 佳 子

### 1. はじめに

「むすんでひらいて」の撥音「ん」が強拍に置かれ、子音に音が割り当てられているという H. ゴチェフスキの問題提起（Gottschewski 2009）から、「子どもの歌におけるモーラ処理」の研究を進めている。ゴチェフスキはドイツ人で、シラブル言語が母語である。そのため、「むすんでひらいて」の冒頭部分「むー/すー/んー/でー」の「ん」は、譜例1のように子音に音が割り当てられ、しかも強拍に置かれていることに違和感を感じていたのである。しかし、日本人は、モーラ言語を母語とするため、「むー/すー/んー/でー」と「ん」が強拍に置かれていても、歌における撥音の処理について、問題意識をせずに歌っているのである。

譜例 1.



このゴチェフスキの問題提起を受け、撥音が強拍に置かれるパターンなどが他の歌ではどのようにモーラ処理されているのか、子どもの歌における撥音のモーラ処理（夏目・村尾 2012）について分析を行った。撥音「ん」が『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』の3種

類の歌集の中でどのようなモーラ処理をされているのかという視点で分析を行った結果、3種類の歌集いずれにおいても歌と音楽のアクセントの一致型が9割近くを占めたが、一致の程度に有意差がみられなかった。

その後、撥音・促音・長音・反復語の頻度を中心とした「子どもの歌における幼児語と大人語のモーラ処理」(夏目 2012)、「子どもの歌における濁音のモーラ処理」(夏目 2013)と、子どもの歌の歌詞(言葉)のモーラ処理について研究を進めている。

濁音は濁った音で、清音と区別される。濁音・半濁音はモーラを強化する音であり、拗音もモーラを強化する音である。そこで、本研究では、モーラを強化する半濁音が、弱化モーラ<sup>1)</sup>である撥音と組み合わさった言葉(単語)の場合、半濁音がどのようなモーラ処理をされているのかを検討する。また、モーラを強化する拗音が、拗音と撥音の組み合わさった言葉(単語)のモーラ処理についても検討し、それぞれの特徴を明らかにする。1音1拍のモーラ言語である日本語は、等拍を前提とした音数律のリズムとされているが、シラブルで表されることもあるため、半濁音と撥音、拗音と半濁音の組み合わさっている言葉(単語)では、半濁音と拗音がどのようなモーラ処理をされているのか検討する。

## 2. 研究方法

### 2-1. 分析の対象曲

本研究は、歌詞を実際にどのように歌っているのかではなく、作曲家がどのように半濁音と撥音、拗音と撥音の組み合わさった言葉を配置し、半濁音と拗音のモーラ処理をしているのか、という視点で分析する。

分析対象とした歌集は、以下の3種類である。

- ① 『わらべうた―日本の伝承童謡』(町田嘉章、浅野健二編、岩波書店)
- ② 『尋常小学唱歌』(文部省)

### ③ 『新しいこどものうた』（ろばの会編、音楽之友社）

これらの3種類を分析の対象曲にした理由は、①岩波書店の『わらべうた』は、多くの古い日本の伝承わらべうたを編纂していること、これまでに多くの研究者がこの楽譜を分析対象にしてきたためである。②『尋常小学唱歌』は、教科書教材として、日本人によって新たに作曲された曲がほとんどである。そのため、日本語のモーラ処理に注意を払って作曲されたであろうと推察されるからである。分析の際は、「日本教科書大系 近代編 第25巻 唱歌、講談社」の『尋常小学唱歌』を使用した。③『新しいこどものうた』は、戦後の民間の歌集であり、新しい日本のこどものうたを創ることを目的とした「ろばの会」<sup>2)</sup>の作曲者である中田喜直、大中恩、磯部俣、宇賀神光利、中田一次による歌集である。以上の理由から、これら3種類の歌集を分析の対象曲とした。

## 2-2. 分析方法

『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』の曲から、半濁音と撥音、拗音と撥音の組み合わせになっている言葉（単語）を抽出する。歌詞は1番だけを分析対象とした。

分析の方法は、「パン」のように半濁音と撥音が組み合わさっている言葉（単語）の場合、「パン」の「パ」の半濁音がどのようなモーラ処理をされているのかを分析する。半濁音は、パ・ピ・プ・ペ・ポの他に、ピャ・ピュ・ピョもあるため、ピャ・ピュ・ピョには拗音も含まれているが、分析時には半濁音に分類する。

「じゃんけん」のように拗音と撥音の組み合わせの場合は、拗音の前にくる濁音の「じ」も含め、「じゃ」のモーラ処理について分析する。「あちゃん」のように拗音の前に子音「ち」がくる場合、「ちゃ」のモーラ処理について分析する。子音+拗音、濁音+拗音のパターンで分析する。

モーラ処理の分類方法は、筆者のこれまでの「子どもの歌におけるモー

ラ処理」の研究の分析結果から、「シラブル統合型」、「拍裏分割型」、「拍裏びょんこ型」、「拍頭分割型」、「拍頭びょんこ型」、「その他」に分け、半濁音と撥音、拗音と撥音の半濁音と拗音が、『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』において、どのようなモーラ処理をされているのか分析する。「シラブル統合型」は1音に2モーラ（1音に半濁音と撥音、1音に拗音と撥音）が置かれるパターン、「拍裏分割型」は拍裏に半濁音や拗音が置かれるパターン、「拍裏びょんこ型」は跳ねるリズムの拍裏に半濁音や拗音が置かれるパターン、「拍頭分割型」は拍頭に半濁音や拗音が置かれるパターン、「拍頭びょんこ型」は跳ねるリズムの拍頭に半濁音や拗音が置かれるパターンである。

「びょんこ」に関して、記譜する場合は付点8分音符と16分音符の組み合わせで示されるが、実際には2:1程度の長短リズムである。「びょんこ」の「びょん」は、拗音と撥音がシラブル化することで1シラブルが長くなりやすく、「びょんこ」で長短のリズムを形成する。

### 3. 結果

『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』における半濁音と撥音、拗音と撥音の半濁音、拗音のモーラ処理の結果、半濁音と撥音、拗音と撥音の組み合わせている言葉（単語）の半濁音、拗音の両方ともに「拍裏びょんこ型」はなかった。そこで、「シラブル統合型」、「拍裏分割型」、「拍頭分割型」、「拍頭びょんこ型」、「その他」の5種類の分類と『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』における半濁音と撥音、拗音と撥音の半濁音と拗音のモーラ処理について分析をした。

#### 3-1. 半濁音と撥音の結果

『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』における半濁

音と撥音の組み合わせの半濁音のモーラ処理の分析結果は、以下のようである。

### 3-1-1. 半濁音のモーラ処理と統計分析（ $\chi^2$ 検定）の結果

表1は半濁音のモーラ処理の回数と％の結果である。「シラブル統合型」、「拍裏分割型」、「拍頭分割型」、「拍頭びょんこ型」、「その他」の間に、『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』の割合の差があるかどうか、半濁音のモーラ処理の $\chi^2$ 検定を行った。 $\chi^2$ 検定の結果、 $\chi^2(8) = 15.0068$ で有意差はなかった。

表1の結果から、半濁音のモーラ処理の回数は、①『わらべうた』、『新しいこどものうた』は「シラブル統合型」が多くあり、『尋常小学唱歌』には「シラブル統合型」はなかった。②『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』すべての曲集に「拍頭分割型」あった。③『尋常小学唱歌』に「拍裏分割型」はあったが、『わらべうた』、『新しいこどものうた』に「拍裏分割型」はなかった。④『わらべうた』、『新しいこどものうた』に「拍頭びょんこ型」はあったが、『尋常小学唱歌』に「拍頭びょんこ型」はなかった。⑤半濁音のモーラ処理の回数結果を見ると、子どもの歌における半濁音と撥音の組み合わせの言葉（単語）は、少ないことがわかった。

表1. 半濁音のモーラ処理の回数（％）

	シラブル 統合型	拍裏 分割型	拍頭 分割型	拍頭 びょんこ型	その他	合 計
わらべうた	11 (57.8)	2 (10.5)	4 (21.1)	1 (5.3)	1 (5.3)	19 (100.0)
尋常小学唱歌	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	1 (33.3)	3 (100.0)
新しいこどものうた	27 (56.2)	0 (0.0)	7 (14.6)	8 (16.7)	6 (12.5)	48 (100.0)
合 計	38 (54.2)	2 (2.9)	13 (18.6)	9 (12.9)	8 (11.4)	70 (100.0)

$$\chi^2(8) = 15.0068$$

### 3-1-2. 半濁音のモーラ処理の型の種類

半濁音のモーラ処理は、大きく5種類に分類された。「シラブル統合型」、「拍裏分割型」、「拍頭分割型」、「拍頭ぴょんこ型」、「その他」それぞれの例をあげる。

#### ① 半濁音の「シラブル統合型」

1音に2モーラが置かれるパターンである。譜例2の「じゃんけんぽん」の場合、半濁音の「ぽ」と撥音「ん」が1拍目の4分音符の1音に置かれている。1音2モーラがシラブル言語のように当てられており、「シラブル統合型」は、言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントが一致している。

譜例 2.



#### ② 半濁音の「拍裏分割型」

半濁音が拍裏に置かれるパターンである。半濁音が拍裏にあるということは、撥音が拍頭にくることになり、言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントが不一致になる。譜例3の場合、半濁音の「ぽ」が1拍目の拍裏に置かれ、弱化モーラの撥音「ん」が、2拍目の拍頭に置かれている。

譜例 3.



#### ③ 半濁音の「拍頭分割型」

拍頭に半濁音、拍裏に撥音がくるパターンである。譜例4の「ジャムパン」の場合、半濁音「パ」が2拍目の拍頭に、撥音「ン」が2拍目の拍裏に置かれている。「拍頭分割型」は、言葉のアクセントと音楽の拍節アクセ

セントが一致している。

譜例 4.



#### ④ 半濁音の「拍頭びよんこ型」

半濁音が拍頭に置かれ、付点音符で長くのばされた「びよんこ」になっている。「拍頭びよんこ型」は、言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントが一致している。譜例 5 の「いっぽんみち」の場合、半濁音「ぽ」が 2 拍目の拍頭の付点 8 分音符、撥音「ん」が 16 分音符に置かれている。

譜例 5.



#### ⑤ 半濁音の「その他」

「その他」には、譜例 6 や譜例 7 のようなパターンがあった。譜例 6 の「てっぺん」のように半濁音「ぺ」と撥音「ん」の両方が 16 分音符の 1 音ずつに置かれている。譜例 7 の「ニっポん」のように、半濁音「ポ」が 3 拍目の 4 分音符に置かれ、撥音「ン」が 4 拍目の 4 分音符に置かれるパターンなどがあった。

譜例 6.



譜例 7.



### 3-2. 拗音と撥音の結果

『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』における拗音と撥音の組み合わせの拗音のモーラ処理の分析結果は、以下のである。拗音の前の子音、濁音の言葉（子音＋拗音、濁音＋拗音）を含めて分析する。

#### 3-2-1. 拗音のモーラ処理と統計分析（ $\chi^2$ 検定）の結果

表2は拗音のモーラ処理の回数と%の結果である。

「シラブル統合型」、「拍裏分割型」、「拍頭分割型」、「拍頭びょんこ型」、「その他」の間に、『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』の割合の差があるかどうか、拗音のモーラ処理の $\chi^2$ 検定を行った。 $\chi^2$ 検定の結果、 $\chi^2(8)=25.0530$ ,  $p<.01$ で有意差があった。そこで、どことどこかの間に有意な差があるのか、更に残差分析を行った結果、表3のようになった。

残差分析の結果から、 $\pm 2$ を超えているものを整理すると、『尋常小学

表 2. 拗音のモーラ処理の回数（%）

	シラブル 統合型	拍裏 分割型	拍頭 分割型	拍頭 びょんこ型	その他	合 計
わらべうた	22 (53.7)	0 (0.0)	8 (19.5)	1 (2.4)	10 (24.4)	41 (100.0)
尋常小学唱歌	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
新しいこどものうた	40 (65.6)	4 (6.6)	8 (13.1)	1 (1.6)	8 (13.1)	61 (100.0)
合 計	62 (60.2)	5 (4.9)	16 (15.5)	2 (1.9)	18 (17.5)	103 (100.0)

$$\chi^2(8)=25.0530, p<.01$$

表 3. 拗音のモーラ処理の残差分析の結果

	シラブル統合型	拍裏分割型	拍頭分割型	拍頭びょんこ型	その他
わらべうた	-1.102	-1.864	0.906	0.297	1.503
尋常小学唱歌	-1.236	4.449	-0.431	-0.141	-0.462
新しいこどものうた	1.344	0.969	-0.817	-0.268	-1.405



唱歌』の「拍裏分割型」の数値が高い。『尋常小学唱歌』の「拍裏分割型」は、歌集とモーラ処理の他の組み合わせより、特徴的であると言える。

### 3-2-2. 拗音のモーラ処理の型の種類

拗音のモーラ処理は、大きく5種類に分類された。「シラブル統合型」、「拍裏分割型」、「拍頭分割型」、「拍頭びょんこ型」、「その他」それぞれの例をあげる。

#### ① 拗音の「シラブル統合型」

1音に子音+拗音と撥音が置かれるパターンである。濁音+拗音と撥音のパターンもある。拗音はモーラを強化し、撥音は弱化モーラであるため、「シラブル統合型」は、言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントが一致している。譜例8の「ぺんぎんちゃん」の場合、拗音の「ちゃ」と撥音「ん」が4分音符の1音に置かれている。

譜例 8.



#### ② 拗音の「拍裏分割型」

拗音が拍裏に置かれるパターンである。拗音が拍裏にあるということは、撥音が拍頭にくることになり、言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントが不一致になる。譜例9の「こねこちゃん」の場合、拗音の「こ」が2拍目の拍裏に置かれ、撥音「ん」が、3拍目の拍頭に置かれている。

譜例 9.



③ 拗音の「拍頭分割型」

拍頭に拗音、拍裏に撥音がくるパターンである。譜例 10 の「あかちゃん」の場合、拗音「ちゃ」が 2 拍目の拍頭に、撥音「ん」が 2 拍目の拍裏に置かれている。「拍頭分割型」は、言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントが一致している。

譜例 10.



④ 拗音の「拍頭びよんこ型」

拗音が拍頭に置かれ、付点音符で長くのばされた「びよんこ」になっている。「拍頭びよんこ型」は、言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントが一致している。譜例 11 の「じゃんけんぼん」の場合、拗音「じゃ」が 1 拍目の拍頭の付点 8 分音符、撥音「ん」が 16 分音符に置かれている。

譜例 11.



⑤ 拗音の「その他」

「その他」には、譜例 12 や譜例 13 のようなパターンがあった。譜例 12 の「とおりゃんせ」のように、拗音（子音+拗音、濁音+拗音）の「りゃ」と撥音「ん」の両方が 16 分音符に置かれている。譜例 13 の「ちゃんの」のように 3 連符の 1 音分に置かれるパターンなどがあった。

譜例 12.



譜例 13.



### 3-3. 言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントの「一致型」と「不一致型」の結果

半濁音と撥音の半濁音のモーラ処理の結果と拗音と撥音の拗音のモーラ処理の結果から、『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』における、言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントの「一致型」と「不一致型」に特徴があるか統計分析（ $\chi^2$ 検定）をした。言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントの一致型は、「シラブル統合型」、「拍頭分割型」、「拍頭びょんこ型」であり、不一致型は「拍裏分割型」である。

#### 3-3-1. 半濁音と撥音の結果

表4は、半濁音の「一致型」と「不一致型」の回数と％の結果である。

『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』の間と半濁音の「一致型」、「不一致型」の間に割合の差があるかどうか $\chi^2$ 検定を行った。 $\chi^2$ 検定の結果、 $\chi^2(2)=5.0519$ で有意差がなかった。

表 4. 半濁音の「一致型」と「不一致型」の回数（％）

	わらべうた	尋常小学唱歌	新しいこどものうた	合 計
一 致 型	16 (26.7)	2 (3.3)	42 (70.0)	60 (100.0)
不 一 致 型	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
合 計	18 (29.1)	2 (3.2)	42 (67.7)	62 (100.0)

$$\chi^2(2)=5.0519$$

## 3-3-2. 拗音と撥音の結果

表5は、拗音の「一致型」と「不一致型」の回数と％の結果である。

『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』の間と拗音の「一致型」、「不一致型」の間に割合の差があるかどうか $\chi^2$ 検定を行った。 $\chi^2$ 検定の結果、 $\chi^2(2)=18.2028$ ,  $p<.01$ で有意差があった。そこで、残差分析を行った結果、表6のようになった。

表5. 拗音の「一致型」と「不一致型」の回数（％）

	わらべうた	尋常小学唱歌	新しいこどものうた	合 計
一 致	31 (38.7)	0 (0.0)	49 (61.3)	80 (100.0)
不一致	0 (0.0)	1 (20.0)	4 (80.0)	5 (100.0)
合 計	31 (36.5)	1 (1.2)	53 (62.3)	85 (100.0)

$$\chi^2(2)=18.2028, p<.01$$

表6. 拗音の「一致型」と「不一致型」の残差分析の結果

	わらべうた	尋常小学唱歌	新しいこどものうた
一 致	1.746	-4.024	-0.840
不一致	-1.746	4.024	0.840

拗音の言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントの「一致型」と「不一致型」の残差分析の結果から、『尋常小学唱歌』は「一致型」が少なく、「不一致型」が多いことがわかった。

## 4. 結果のまとめ

## 〈半濁音と撥音〉

半濁音のモーラ処理の $\chi^2$ 検定をした結果、有意差はなかった。

半濁音のモーラ処理の回数の結果から、以下の4点がわかった。

- ① 『わらべうた』、『新しいこどものうた』は「シラブル統合型」が多くあり、『尋常小学唱歌』には「シラブル統合型」はなかった。

- ② 『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』すべての曲集に「拍頭分割型」があった。
- ③ 『わらべうた』に「拍裏分割型」はあったが、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』に「拍裏分割型」はなかった。
- ④ 『わらべうた』、『新しいこどものうた』に「拍頭びんこ型」はあったが、『尋常小学唱歌』に「拍頭びんこ型」はなかった。

#### 〈拗音と撥音〉

拗音のモーラ処理の $\chi^2$ 検定をした結果、有意差があり、残差分析を行った結果、『尋常小学唱歌』は「拍裏分割型」が多いということがわかった。

拗音のモーラ処理の回数の結果から、以下の3点がわかった。

- ① 『わらべうた』、『新しいこどものうた』は「シラブル統合型」が多くあり、『尋常小学唱歌』には「シラブル統合型」はなかった。
- ② 『わらべうた』、『新しいこどものうた』は「シラブル統合型」、「拍頭分割型」、「拍頭びんこ型」があったが、『尋常小学唱歌』には「シラブル統合型」、「拍頭分割型」、「拍頭びんこ型」はなかった。
- ③ 『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』は「拍裏分割型」があったが、『わらべうた』には「拍裏分割型」はなかった。

#### 〈半濁音と撥音、拗音と撥音の共通点〉

- ① 半濁音と撥音、拗音と撥音の組み合わせは5種類に分類され、「シラブル統合型」、「拍裏分割型」、「拍頭分割型」、「拍頭びんこ型」、「その他」であった。
- ② 「拍裏びんこ型」は、半濁音と撥音、拗音と撥音の組み合わせ両方ともなかった。
- ③ 半濁音と撥音、拗音と撥音の組み合わせ両方のモーラ処理の回数の結果を見ると、『わらべうた』、『新しいこどものうた』は「シラブル

統合型」が一番多く、『尋常小学唱歌』は「シラブル統合型」は全くなかった。

〈言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントの一致型と不一致型〉

- ① 半濁音の言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントの一致型の $\chi^2$ 検定の結果、有意差はなかった。
- ② 拗音の言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントの不一致型の $\chi^2$ 検定の結果、有意差があり、残差分析をした結果、『尋常小学唱歌』は「一致型」が少なく、「不一致型」が多いことがわかった。

## 5. 考察

本研究の半濁音と撥音、拗音と撥音のモーラ処理の結果から得られた、『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』の特徴をまとめる。

最大の特徴は、『わらべうた』と『新しいこどものうた』のモーラ処理の方法には、作曲された時代は異なるが同じ傾向が多くあり、『尋常小学唱歌』は、『わらべうた』、『新しいこどものうた』とは異なる方法でモーラ処理されていることである。これらの特徴は、以下の結果から明らかにされる。

- ① 半濁音と撥音、拗音と撥音の組み合わせ共に、『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』のモーラ処理において、『わらべうた』、『新しいこどものうた』は「シラブル統合型」が一番多く、『尋常小学唱歌』は「シラブル統合型」が全くなかった。
- ② 半濁音と撥音、拗音と撥音の半濁音、拗音の言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントの「一致型」と「不一致型」の結果から、『わらべうた』、『新しいこどものうた』は「一致型」が「不一致型」に比べ

て多くあった。『尋常小学唱歌』は、半濁音は「不一致型」がなく、「一致型」のみであったが、『わらべうた』、『新しいこどものうた』に比べると、数値が少ない。拗音は、「一致型」はなかった。すなわち、半濁音、拗音の言葉のアクセントと音楽の拍節アクセントの「一致型」と「不一致型」の結果に共通点は見られなかったが、『わらべうた』、『新しいこどものうた』の「一致型」が多いという結果とは異なっているため、『わらべうた』、『新しいこどものうた』と同じモーラ処理の方法であるとは断定しにくい。

『わらべうた』、『尋常小学唱歌』、『新しいこどものうた』それぞれ時代の異なる歌集を比較したことで、時代が古い時代から新しい時代に変化するにつれ、言葉のモーラ処理も変化するのではなく、その歌集の時代に使用される言葉やリズムによってモーラ処理が変化している。また、『尋常小学唱歌』には、半濁音と撥音、拗音と撥音の組み合わせの言葉自体が、歌詞の中にあまり使用されていないということも明らかになった。

## 6. 今後の課題

本研究では、子どもの歌における半濁音と撥音・拗音と撥音のモーラ処理という視点で分析を行った。モーラを強化する濁音・半濁音・拗音と撥音の言葉の組み合わせによるモーラ処理の分析を進めてきたが、幼児語と大人語の言葉のリズムにも、濁音・半濁音・拗音は存在する。今後は、幼児語、大人語が持っている言葉のリズムに注目し、濁音・半濁音・拗音のモーラ処理について研究を発展させてゆきたい。

夏 目 佳 子

注

- 1) 「弱化モーラ」は、村尾・疇地（1998）が使い始めた用語であるが、一般的には「モーラの弱化」と表現されている。
- 2) 「ろばの会」は、童謡ではなく、「新しい日本のこどものうた」を創ることを目的としている。

引用・参考文献

- 村尾忠廣・疇地希美（1998）「90年代おじさんの歌えない若者の歌—その2：弱化モーラによる配字シンコペーションとおじさんの音楽情報処理」情報処理学会研究報告『音楽情報科学』98（74）、pp. 31-38 情報処理学会
- 村尾忠廣・夏目佳子（2012）「子どもの歌における撥音「ん」のモーラ処理—「ん」の配置、シラブル化の様相をめぐって」『帝塚山大学現代生活学部紀要』第8号 pp. 87-99
- 夏目佳子（2012）「子どもの歌における幼児語と大人語のモーラ処理—撥音・促音・長音・反復語の頻度を中心にして—」『名古屋短期大学研究紀要』第50号 pp. 139-145
- 夏目佳子（2013）「子どもの歌における濁音のモーラ処理」『名古屋短期大学研究紀要』第51号 pp. 209-216

※ 同朋福祉編集委員会規定により「研究ノート」としての査読済み

（本学非常勤講師：音楽教育）